



大原小だより No18

《学校教育目標》

自らの考えをつくり、協働しながら活動し社会に貢献できる素地を育てる
「主体」「協働」「挑戦」

Facebook



美作市立大原小学校 令和5年2月15日(水)発行 文責 金島久美子

挑戦

1 大原小学校6年生の取組が評価されました。

「岡山学び大賞」フォーラム

山陽新聞社「岡山桃太郎賞」受賞



県内の小中高等学校がオンラインでつながり、探究的な学習を発表し、自分たちの意見を交流しました。



○地域や学校でがんばっている県内の小学生を応援して下さる賞です。コロナで授賞式は開催なしですが、3月26日の山陽新聞特集号をご覧ください。

学高力



2 4年生の手話の学習が「広報みまさか3月号に」

○4年生は総合的な学習の時間で聴覚障害について学びました。

社会福祉協議会の協力を得て、たくさんの手話を学びました。その学びを「利活用」して、広報みまさかに手話を披露します。



協働

他行力

他行力「他行力」:他の人の立場にたって行動する力

3 4年生の「宮本武蔵」についての探究的な学習

江戸初期の剣術家我が剣道史上(けんどうじょう)う)

宮本武蔵といえば、二刀流というイメージがありますが、もともとは、武蔵少年神社で太鼓を打つ係で左右の手を使っていたと言われていたげんき

あゆみ

三択クイズ
宮本武蔵は両刀流で有名な方ですか?
①一刀流
②五刀流
③二刀流



○4年「宮本武蔵」
5年「大原の町をきれいにしよう」
6年「大原安全マップ」のプレゼンテーションを玄関のモニターで視聴できます。
大原小児童の利活用を是非ご覧ください。

第二問！！

五輪書に書かれているこの名言はどういう意味でしょうか。

兵法の道において、心の持ちやうは、常の心に替る事なかれ。

宮本武蔵



正解は

兵法の道において、心の持ち方は、日常の心と変わらないようにしてください。

日常でも、兵法の時でも、少しも変わらず、心を広く素直にして、きつく緊張することなく、少しもたるむことなく、心が偏らないように、心を真ん中に置いて、心を静かに揺るがして、揺るぎの刹那も揺るぎまいように、よくよく吟味すべきである

刹那(せつな)吟味(きんみ)

主体

自考力

自考力:自分事として考える力

4 「地域に開かれた学校」へ



これからの公立小学校は、「地域に開かれた学校」として、ますます保護者、地域の皆様に学校の取組をご覧頂き、地域を教室に、教材に、皆様のお力を借りて教育活動を行うことが求められています。ご家庭で子どもさんと、地域の皆様と大原小学校の取組をタイムリーに共有していただけるよう、Facebookにて各学年、学級の取組を発信しております。是非ご覧ください。



5 来年度の変更点①スクールバス

PTA 評議員会及び1月27日(月) オンライン説明会からの変更点

スクールバスについて(路線名・登校便は1便・2便体制となります)

○1便化: 新路線名: ①江ノ原・西町便 ②東栗倉・川東便

学校到着時刻が概ね7:55~8:00 補助席も利用します。

○2便運行を継続: 大野・大吉便 ※必要に応じて、野形への臨時便の運行あり

発車時刻は今年度までのように、月ごとで早便、遅便が変わります。ご理解・ご協力宜しくお願いします。

時刻表は、別途ご案内します。新しい時刻の運行につき、変更点が生じますことを申し添えます。

来年度の変更点②学校生活などの変更点

PTA 評議員会及び1月27日(月) オンライン説明会のとおり

①土曜授業の実施: 年1回

②家庭訪問: 4月第3週に希望個別懇談(必要に応じて家庭訪問)

③学級PTA活動: (1学期にPTA了承事項): 原則1年6年は年2回、その他の学年は1回程度

④夕刻のPTA行事開始時刻: 18時開始←19時開始を改める。

⑤登校時刻: バス変更による8時前後の登校時刻に改正。徒歩通学児童も同様

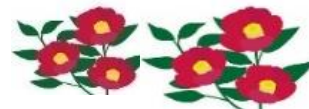
⑥低学年学習時間割の変更: 5校時→4校時に変更する曜日も検討中

⑦下校時刻: 低学年の下校時刻に原則合わせるよう改めて保護者に依頼。
※目的は生活リズム・心身の負担軽減

⑧忘れ物等への対応:

○原則として忘れ物を担任等が自宅に届けること・電話連絡はしない。

○コロナ時の対応: 原則として、保護者が必要な物品を学校に取りに来る。



6 保護者の皆様「ご協力お願いします！」

教員の長時間労働が全国的な話題になっています。

1 現状

岡山県の小学校教員の時間外労働時間は平均で月約50時間

2 対応

岡山県教育委員会: 令和5年度~月あたり時間外在校時間を3年間で8時間以上削減目標

3 目的: 「児童がこれからの予測不可能な社会

を自律的に生き、社会の形成に参画するための力」の育成のため学校が「主体的で探究的な学び」に向け、変革する必要がある。※大原小も全力で取組中

4 教育時報 2023年2月号より一部抜粋

「多くの教職員は児童生徒のために一生懸命様々なことをしています。しかし、それですと長時間労働や加重負担がかかったままどうなるでしょうか? 第一に、健康を崩します。…中略…第二に…協働的で探究的な学びが重要なことは言うまでもありませんが、教員が探究する時間や学ぶ時間が少なくて、どうして子ども達の成長を支援できるでしょうか? 第三に人材確保の影響です。…中略…

教員が忙しすぎると、子どものためにならないことが指摘されています。…略

5 校長よりお願い

大原小では、将来必要とされる「問題発見能力」等の育成に向け「主体・協働・挑戦」の力を柱に「探究的な学び」を全教職員で力を合わせて取り組んでいます。児童と教職員が全力で取り組める大原小に向け、お力をお貸しください。